

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第28週 （7月8日～7月14日）

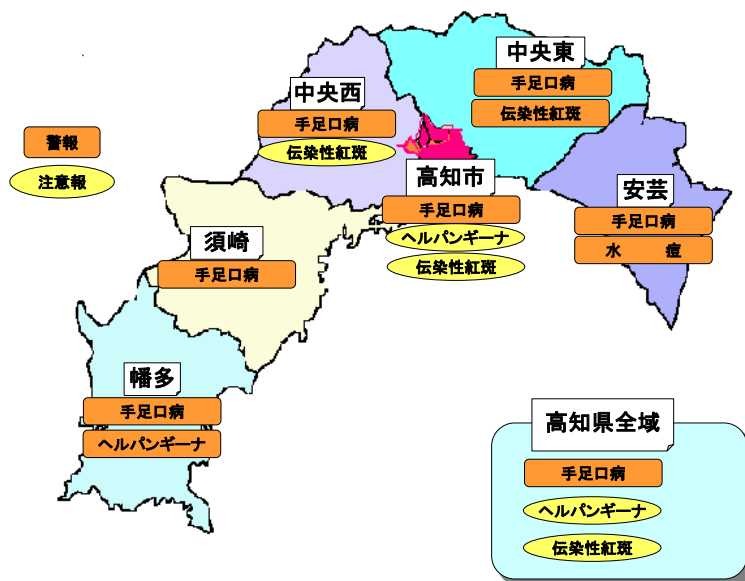
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↘	11.27	県全域、中央西、中央東、高知市、安芸で減少していますが、県全域、全ての保健所管内で警報値を超えています。
ヘルパンギーナ	→	3.17	中央東、安芸で減少していますが、幡多、中央西で急増し、幡多では警報値を、県全域、高知市では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	2.20	安芸、須崎で急減、幡多、中央東で減少していますが、高知市で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.67	中央東で減少していますが、高知市、須崎で増加しています。
伝染性紅斑	↗	1.03	須崎で急減していますが、中央西で急増、県全域、中央東、高知市で増加し、中央東では警報値を、県全域、中央西、高知市では注意報値を超えています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・爪は短く切っていますか？
- ・指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、手のひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○夏型感染症（手足口病・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

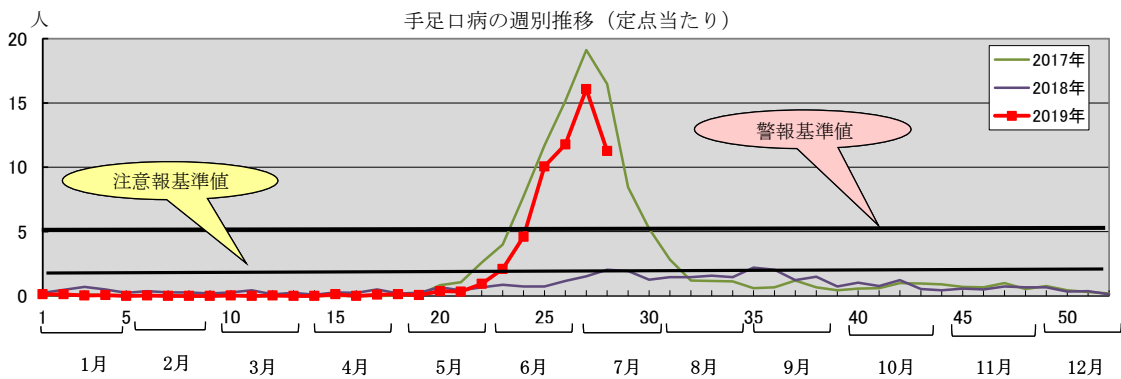
例年、6月頃から増えはじめ、7月頃にピークを迎える夏型感染症の報告数が増加していますので注意しましょう。

＜手足口病＞

手足口病は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。タオルの共有は避け、流水と石けんでしっかりと手洗いしましょう。

通常は3～5日の潜伏期において、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。また、近年のCoxsackievirus A6による手足口病では、手足口病の症状が消失した後1ヶ月以内に一時的に爪脱落が起こる症例（爪甲脱落症）も報告されていますが、これらは自然に治るとされています。

ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。



手足口病 高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況

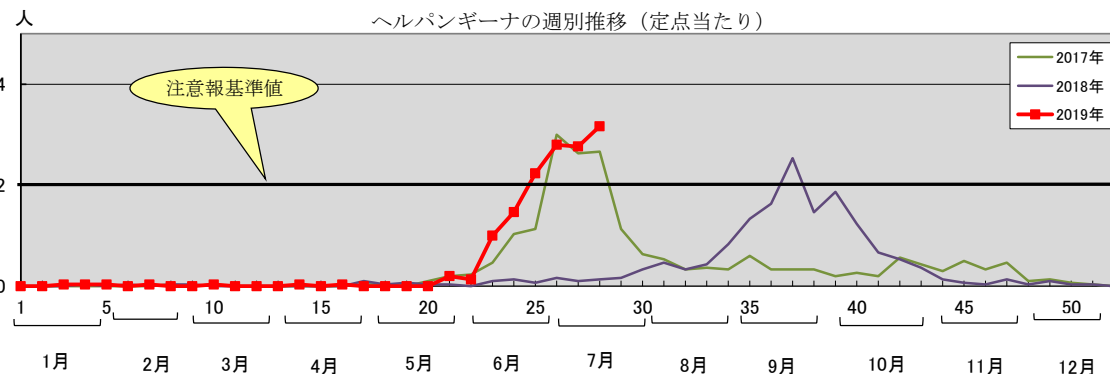
	第28週		第27週		第26週		第25週		第24週		第23週		第22週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	11.27	△	16.07	△	11.77	△	10.07	△	4.60	○	2.10	○	0.93	-
安芸	5.50	△	9.00	△	2.50	○	5.00	△	3.50	○	-	-	5.00	△
中央東	10.00	△	15.00	△	11.57	△	5.86	△	3.00	○	1.29	-	0.71	-
高知市	9.91	△	17.55	△	16.82	△	19.18	△	9.27	△	4.18	○	0.55	-
中央西	10.33	△	19.33	△	19.33	△	6.33	△	0.67	-	0.67	-	0.33	-
須崎	23.00	△	21.00	△	7.00	△	3.00	○	1.00	-	-	-	-	-
幡多	14.20	△	13.20	△	2.00	○	3.00	○	0.80	-	1.20	-	1.20	-
全国	-	-	9.79	△	6.70	△	5.18	△	4.02	○	2.79	○	1.95	-

注意報値：○（2以上5未満） 警報値：△（5以上）

＜ヘルパンギーナ＞

夏から秋にかけて流行する疾患で、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を主症状としたいわゆる「夏かぜ」の代表的疾患です。

2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤が現れます。口腔内の痛みがあり食事がとり難いため、柔らかく、薄味の食事を工夫し、水分補給を心掛けましょう。



<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のもを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・手足口病は治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されますし、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合があると考えられています。しっかりした手洗いが大切です。

●厚生労働省 「手足口病に関する Q&A」平成 25 年 8 月

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>

●厚生労働省 「わかりやすい感染症 Q&A」(O157, 髄膜炎, つつが虫病, 高病原性インフルエンザ, 咽頭結膜熱, 感染性胃腸炎, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発疹, 風しん, ヘルパンギーナ, 麻しん, 流行性耳下腺炎, インフルエンザ)

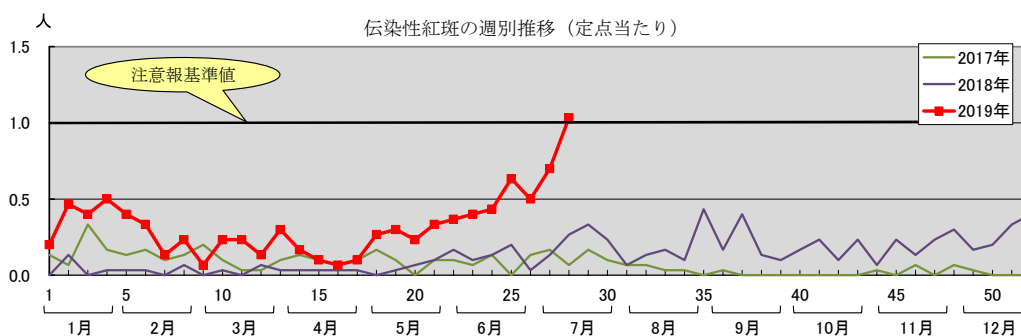
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html>

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7 日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常 1 週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発しんが出現する 7~10 日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で 3~4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日~数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
28	—	—	8	男	高知市	human parvovirus B19
28	伝染性紅斑	39℃,発疹,	7	男	須崎	human parvovirus B19
28	—	39℃,	6	男	中央東	Human herpes virus 7
28	ウイルス性肝炎	肝機能,	1	女	中央東	Sapovirus genogroup unknown
28	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,	11	女	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
28	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,発疹,	2	男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
26	手足口病	40℃,発疹,口内炎,	8ヶ月	男	高知市	Coxsackievirus A6
26	伝染性紅斑	発疹,	10	男	須崎	Rhinovirus
27	手足口病	38℃,咳嗽,発疹,	11ヶ月	女	須崎	Coxsackievirus A6 Adenovirus 2
27	手足口病	38℃,水疱,発疹,	2	男	高知市	Coxsackievirus A6
27	手足口病	39℃,水疱,発疹,	1ヶ月	男	高知市	Coxsackievirus A6
27	手足口病	39℃,水疱,発疹,	1	男	高知市	Coxsackievirus A6
27	感染性胃腸炎	39℃,嘔吐,嘔気,	2ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus A6
27	手足口病	40℃,水疱,発疹,	9ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus A6
27	手足口病の疑い	38℃,咳嗽,上気道炎,	3	男	中央東	Coxsackievirus A6
27	ヘルパンギーナ	40℃,発疹,	2	女	須崎	Coxsackievirus A6
27	手足口病	39℃,発疹,	2	男	須崎	Coxsackievirus A6
27	不明発疹症	39℃,咳嗽,発疹,	2	男	須崎	Coxsackievirus A6
27	—	39℃,発疹,口内炎,	1	女	幡多	Coxsackievirus A6
27	ヘルパンギーナ	38℃,上気道炎,	2	女	幡多	Coxsackievirus A6
27	呼吸器感染症	39℃,上気道炎,	1	女	高知市	Echovirus 11
27	—	38℃,咳嗽,	2	男	中央東	Rhinovirus

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間(2019年第21週～第25週)では、Coxsackievirus A6の検出割合が最も多く63%(53件)、次いでCoxsackievirus A16が12%(10件)、Rhinovirusが11%(9件) Human herpes virus 6が5%(4件)となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	68	0～4歳 女	高知市
		1		5～9歳 男	
		1		70歳代 女	
		1		80歳代 女	
		1		70歳代 男	中央西
		1		90歳代 女	須崎
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	13	0～4歳 男	高知市
	百日咳	1	99	40歳代 女	安芸
		1		10～14歳 女	中央東
		1		5～9歳 女	高知市
		1		10～14歳 女	

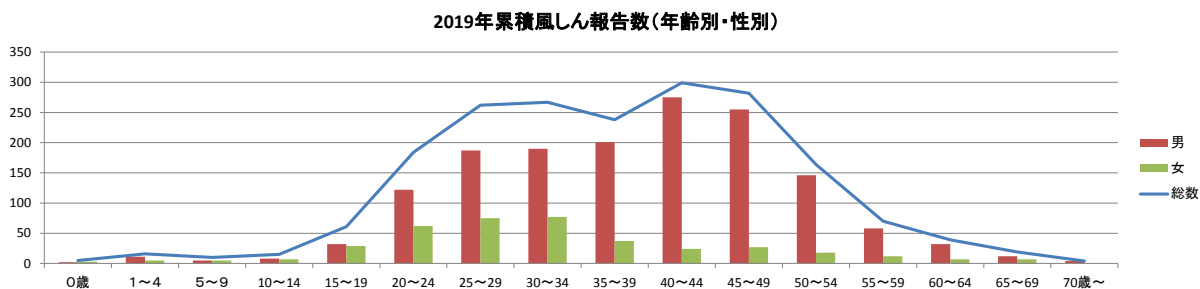
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	おひさまこどもクリニック	hMPV 気管支炎 1 例 (1 歳男)
	早明浦病院小児科	手足口病 6 例 (1~4 歳) ヘルパンギーナ 3 例 (1 歳) 伝染性紅斑 8 例 (11 ヶ月~6 歳)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 4 例 (1 ヶ月女、1 歳女 3 人) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 例 (5 歳男) カンピロバクター 1 例 (7 歳男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 5 例 (0 歳、1 歳、3 歳、5 歳、6 歳) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (8 歳) サルモネラ O-7+病原性大腸菌 O-6 腸炎 1 例 (9 歳) hMPV 気管支炎 1 例 (1 歳)
	三愛病院小児科	hMPV 1 例 (2 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 5 例 手足口病 19 例 ヘルパンギーナ 5 例 水痘 1 例 (10 歳女：ワクチン 1 回済み)
	ふないキッズクリニック	今シーズンの手足口病は、1、2 日の高熱後、解熱し発疹が出現している。1、2 日目受診時にはヘルパンギーナと診断されている。
	細木病院小児科	ノロ 2 例 (1 歳男、4 歳女)
中央西	石黒小児科	水痘 1 例 (1 歳男：予防接種 1 回済み)
	くぼたこどもクリニック	手足口病 2 例 (1 歳女、10 歳男：須崎市)
須 崎	もりはた小児科	hMPV 感染 1 例 (1 歳男) 単純性ヘルペス 1 例 (7 歳男) 手足口病の流行続く 45 例 カンピロバクター腸炎 2 例
幡 多	こいけクリニック	ノロ、ロタ同時に検出 1 例 (1 歳男)
	さたけ小児科	hMPV 1 例 (1 歳男) 手足口病 24 例 ヘルパンギーナ 22 例
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 2 例 (9 ヶ月男、3 歳女)

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019 年第 1 週~27 週の報告数は 1935 人となっており (2018 年の同時期全国で 51 人)、95% (1828 人) が成人で、30 歳から 50 歳代の男性を中心に (男性 1540 人、女性 395 人) に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、佐賀県、島根県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
潜 伏 期 間 : 2~3 週間程度
感染性のある期間: 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として 2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第 5 期)を実施しています。

2019 年度は、

・1972 年（昭和 47）年 4 月 2 日から 1979 年（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和 37）年 4 月 2 日から 1972（昭和 47）年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。

2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

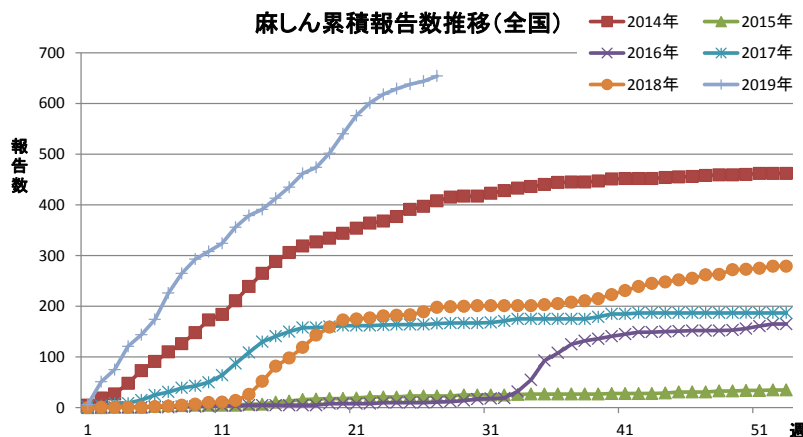
●衛研ニュース第 20 号（高知県衛生環境研究所）30~50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻疹に気を付けて！

麻疹については、平成 27 年 3 月 27 日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019 年第 1 週~27 週の全国の麻疹の報告数は 654 人と過去 5 年で比較して多い状態が継続

しています（累積報告数：2014年 462人、2015年 35人、2016年 165人、2017年 187人、2018年 279人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成31年3月4日付け30高健対発第1886号「麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ① 発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻しんの可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻しんを意識した診療をお願いいたします。
- ② 麻しんを疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻しん患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第12条第1項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

● 医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

● 麻しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakaku-kansenshou/measles/index.html

● 麻しん（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年7月16日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第28週 令和元年7月8日(月)～令和元年7月14日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/12/31～R1/7/14	H30/12/31～R1/7/7		
インフルエンザ								()	()	860 (0.17)	13,747 (286.40)	1,422,928 (288.04)		
小児科	咽頭結核膜炎		1	5		1	4	11 (0.37)	13 (0.43)	2,013 (0.63)	282 (9.40)	35,932 (11.39)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	2	36	1	3	6	50 (1.67)	42 (1.40)	6,611 (2.08)	1,978 (65.93)	200,216 (63.44)		
	感染性胃腸炎	2	9	36	2		17	66 (2.20)	65 (2.17)	14,814 (4.67)	3,842 (128.07)	501,854 (159.02)		
	水痘	5	2	2	1			10 (0.33)	6 (0.20)	1,111 (0.35)	218 (7.27)	29,850 (9.46)		
	手足口病	11	70	109	31	46	71	338 (11.27)	482 (16.07)	31,065 (9.79)	1,752 (58.40)	116,977 (37.06)		
	伝染性紅斑		14	12	4	1		31 (1.03)	21 (0.70)	2,940 (0.93)	278 (9.27)	58,733 (18.61)		
	突発性発疹		5	4	1	1	3	14 (0.47)	6 (0.20)	1,563 (0.49)	267 (8.90)	34,246 (10.85)		
	ヘルパンギーナ	1	13	26	3	3	49	95 (3.17)	83 (2.77)	6,720 (2.12)	420 (14.00)	24,447 (7.75)		
	流行性耳下腺炎		1					1 (0.03)	2 (0.07)	446 (0.14)	27 (0.90)	8,573 (2.72)		
	RSウイルス感染症		2	14			1	17 (0.57)	5 (0.17)	1,264 (0.40)	387 (12.90)	33,141 (10.50)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	1 (0.33)	200 (0.29)		
	流行性角結膜炎							()	2 (0.67)	445 (0.64)	41 (13.67)	11,323 (16.29)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	257 (0.54)		
	無菌性髄膜炎							()	()	16 (0.03)	1 (0.13)	301 (0.63)		
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.50)	1 (0.13)	71 (0.15)	73 (9.13)	2,039 (4.26)		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	()	4 (0.50)	51 (0.11)		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	1 (0.13)	40 (0.08)	88 (11.00)	4,512 (9.42)		
計 (小児科定点当たり人数)	21 (10.50)	119 (17.01)	248 (22.16)	43 (14.32)	55 (27.50)	151 (30.20)	637 (21.11)		69,994	23,408 (601.44)	2,485,580			
前週 (小児科定点当たり人数)	28 (14.00)	161 (22.85)	301 (27.10)	65 (21.65)	51 (25.50)	123 (24.60)		729 (24.18)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

第28週

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/12/31～R1/7/14	H30/12/31～R1/7/7		
インフルエンザ								()	()	860 (0.17)	13747 (286.40)	1422928 (288.04)		
小児科	咽頭結核膜炎		1.00	5.00		1.00	4.00	11 (0.37)	13 (0.43)	2013 (0.63)	282 (9.40)	35932 (11.39)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	2.00	36.00	1.00	3.00	6.00	50 (1.67)	42 (1.40)	6611 (2.08)	1978 (65.93)	200216 (63.44)		
	感染性胃腸炎	2.00	9.00	36.00	2.00		17.00	66 (2.20)	65 (2.17)	14814 (4.67)	3842 (128.07)	501854 (159.02)		
	水痘	5.00	2.00	2.00	1.00			10 (0.33)	6 (0.20)	1111 (0.35)	218 (7.27)	29850 (9.46)		
	手足口病	11.00	70.00	109.00	31.00	46.00	71.00	338 (11.27)	482 (16.07)	31065 (9.79)	1752 (58.40)	116977 (37.06)		
	伝染性紅斑		14.00	12.00	4.00	1.00		31 (1.03)	21 (0.70)	2940 (0.93)	278 (9.27)	58733 (18.61)		
	突発性発疹		5.00	4.00	1.00	1.00	3.00	14 (0.47)	6 (0.20)	1563.00 (0.49)	267 (8.90)	34246 (10.85)		
	ヘルパンギーナ	1.00	13.00	26.00	3.00	3.00	49.00	95 (3.17)	83 (2.77)	6720 (2.12)	420 (14.00)	24447 (7.75)		
	流行性耳下腺炎		1.00					1 (0.03)	2 (0.07)	446 (0.14)	27 (0.90)	8573 (2.72)		
	RSウイルス感染症		2.00	14.00			1.00	17 (0.57)	5 (0.17)	1264 (0.40)	387 (12.90)	33141 (10.50)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	1 (0.33)	200 (0.29)		
	流行性角結膜炎							()	2 (0.67)	445 (0.64)	41 (13.67)	11323 (16.29)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	257 (0.54)		
	無菌性髄膜炎							()	()	16 (0.03)	1 (0.13)	301 (0.63)		
	マイコプラズマ肺炎			4.00				4 (0.50)	1 (0.13)	71 (0.15)	73 (9.13)	2039 (4.26)		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	()	4 (0.50)	51 (0.11)		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	1 (0.13)	40 (0.08)	88 (11.00)	4512 (9.42)		
計 (小児科定点当たり人数)	21.00 (10.50)	119.00 (17.01)	248.00 (22.16)	43.00 (14.32)	55.00 (27.50)	151.00 (30.20)	637 (21.11)		69,994	23,408 (601.44)	2,485,580			
前週 (小児科定点当たり人数)	28 (14.00)	161 (22.85)	301 (27.10)	65 (21.65)	51 (25.50)	123 (24.60)		729 (24.18)						

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第28週)

